

伐採跡地管理の効率化について

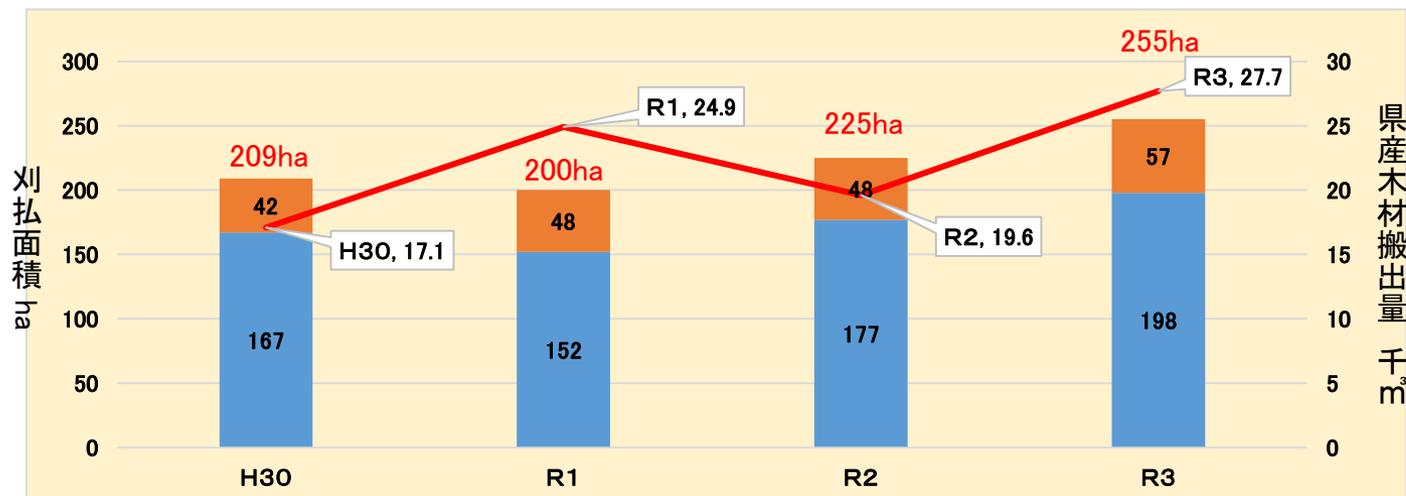
県央農林総合事務所



はじめに

近年、伐採後の再造林面積が増加し、下刈面積が年々増加

担い手数が伸び悩む中、県産木材の増産のためには、新規就業者の確保とあわせ、伐採跡地管理の効率化を図り、その分の労務を木材生産に振り向けていくことが必要



下刈と再生竹刈払面積、県産木材生産量の推移

伐採跡地管理の省力化に関する研修会の開催

林業試験場の研究員を講師として、広葉樹林も含めた下刈終了基準や下刈省力化試験の結果について情報共有



よくわかる
石川の森林・林業技術 No.16
低コスト再造林の
進め方



石川県農林総合研究センター林業試験場

現地指導

下刈終了基準(樹高が草丈の1.5倍以上か下草よりも60~80cm高い)を参考に、現地指導を実施



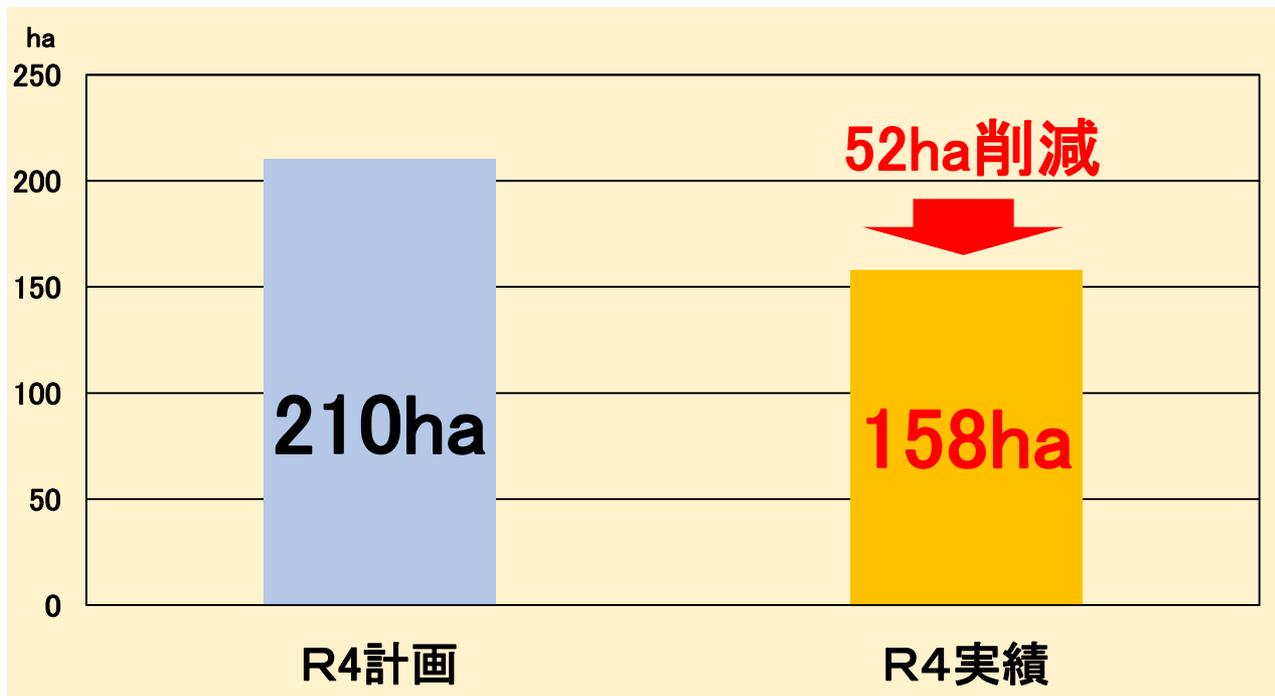
下刈 要
(苗高80cm、下草高80cm)



下刈 不要
(苗高200cm、下草高120cm)

指導結果

森林組合において下刈終了基準を見直し、**計画量に対し、52haの下刈を削減**

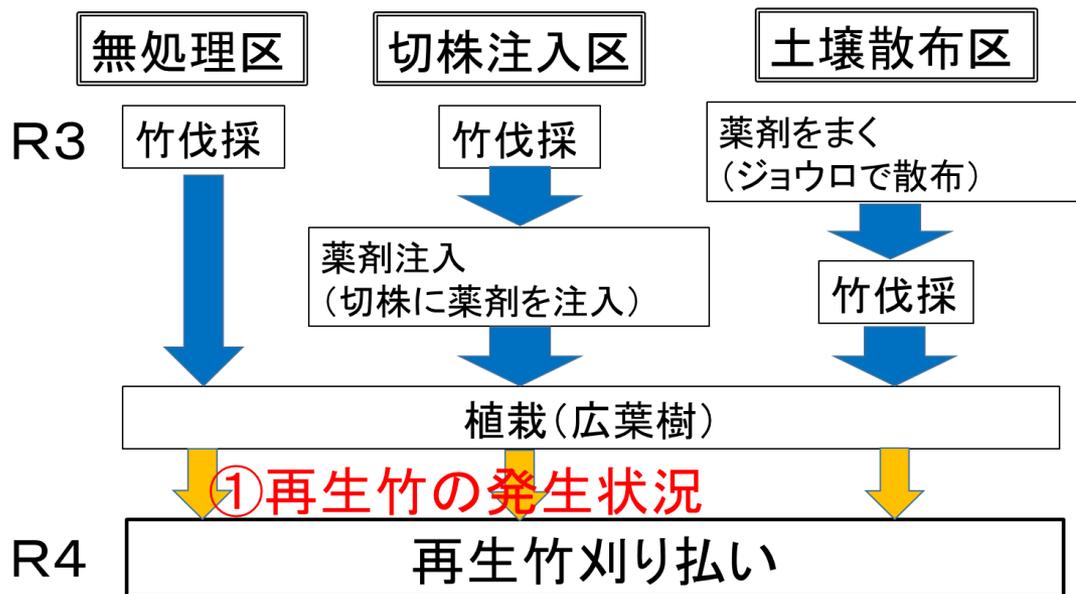


造林補助金申請実績(下刈)

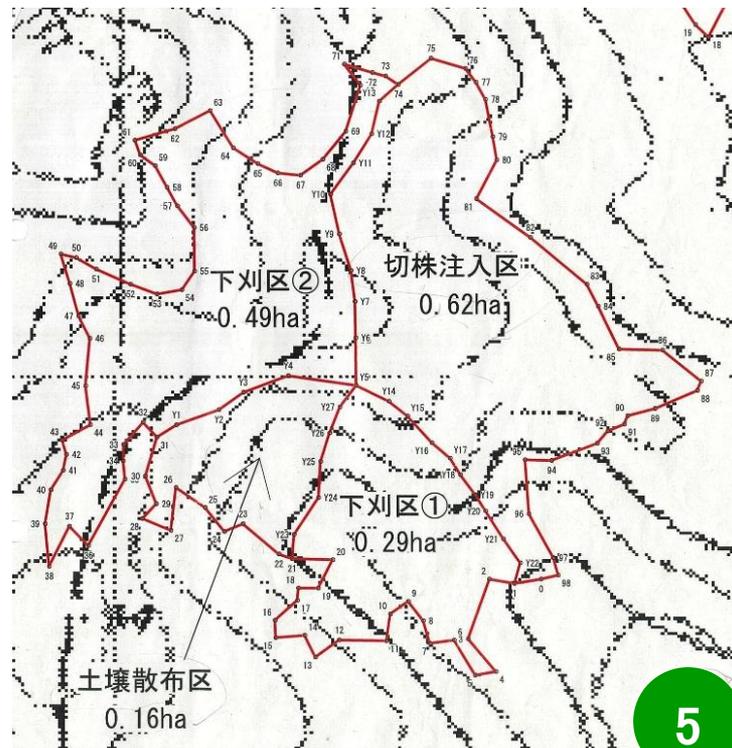
竹林における薬剤散布試験

再生竹の刈払は、通常の下刈に比べ人工数が多く、省力化が可能となれば、より多くの労務を県産木材の増産に充当することが可能

R3年度より、林業試験場と金沢森林組合の協力を受けて試験を実施



②刈り払い労務



作業方法

切株注入区

- ・薬剤：ラウンドアップ
マックスロード
- ・使用量：5ml/本
- ・5.5ℓの容器を4本使用
- ・ドリルで穴を開け、
薬剤を注入
- ・コルクで穴をふさぐ



作業方法

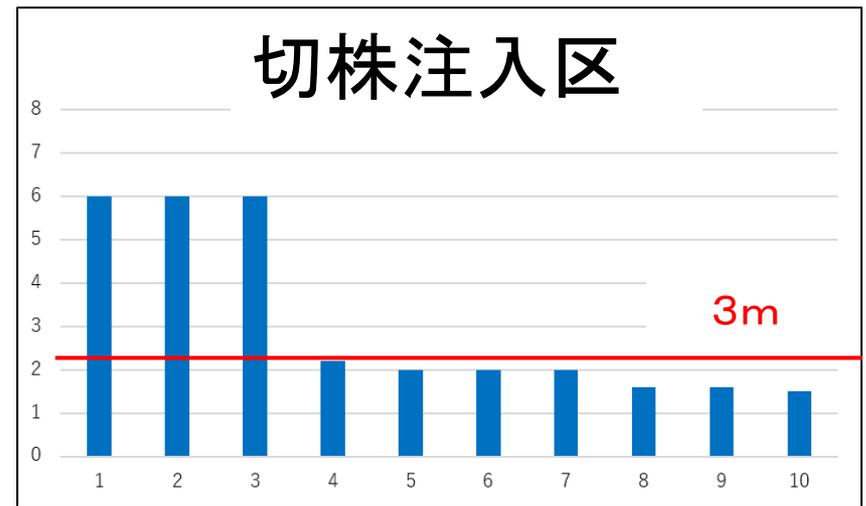
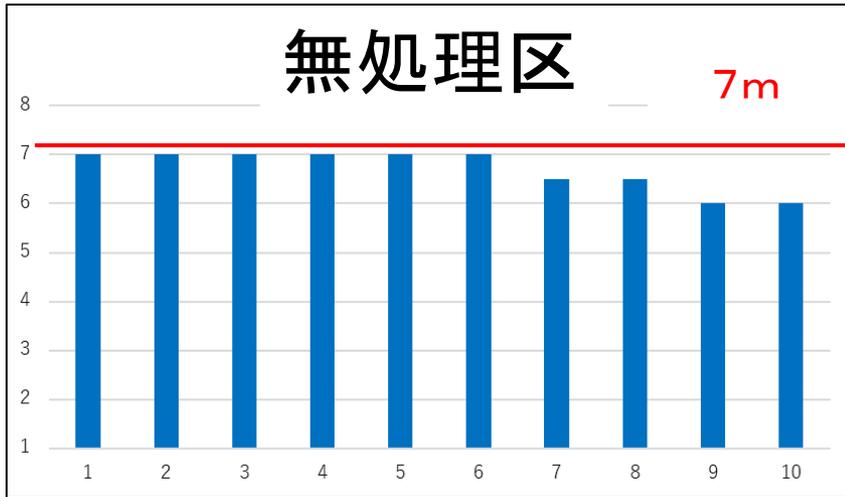
土壌散布区

- 薬剤：クロレートS粒剤
- 使用量：500kg/ha
- 1袋5kgの薬剤を16袋使用
- ジョウロを使って竹の根元に1本ずつ散布



調査結果① 再生竹の抑制効果

再生竹の高さが高い順に10本選び、高さを計測



無処理区	
No.	高さ(m)
1	7
2	7
3	7
4	7
5	7
6	7
7	6.5
8	6.5
9	6
10	6
平均	6.7



切株注入	
No.	高さ(m)
1	6
2	6
3	6
4	2.2
5	2
6	2
7	2
8	1.6
9	1.6
10	1.5
平均	3.09



調査結果② 再生竹の抑制効果と植栽木への影響

土壌散布区



再生竹は見られない

植栽木



すべての区域で植栽木は枯れていない

調査結果③ 労務量削減効果の試算

竹林成立本数 5,000本/ha

作業内容	無処理	切株注入	土壌散布
親竹伐採 ・薬剤処理	40.0人/ha	44.6人/ha	46.6人/ha
再生竹刈払 (1回目)	13.9人/ha	9.7人/ha	6.3人/ha
再生竹刈払 (2回目) ※R5計画	13.9人/ha	9.7人/ha	6.3人/ha
計	67.8人/ha	64人/ha	59.2人/ha
削減率	—	94%	87%

成果と課題

・広葉樹林やスギ林の伐採跡地においては、指導内容を踏まえ、
下刈面積を52ha(計画量の約25%)削減

・竹林の伐採跡地においては、薬剤処理により、
再生竹の抑制や労務量の削減が可能となったほか、

森林組合からは、作業が容易となることで軽労化でき、労働安
全衛生面でも有効との意見

・伐採跡地管理の省力化により削減された労務を確実に県産木
材の増産に振り向けられる仕組みづくり

→ 伐採前作業時期との日程調整、高性能林業機械の貸与等